

# C. 生徒指導研究

川田 基生 田内 公望 原 幸宏 丸山 豊  
安井 弘美\* 米田 閏一 米山 誠

## 1. 必修クラブについての一考察

川田 基生

### 【はじめに】

沿は自然にうつりかわること、革は意図してあらためる変化だという。以下は文字通りクラブ活動と部活動についての沿革を述べることになる。

本校では昨年度からクラブ活動と部活動のしくみを変更した。生徒の在り方の変化、社会のうつりかわりに応じて、合議の上で手を入れた。

今年になって新学習指導要領が発表され、見てみると、本校の昨年からの改革と同じことが書かれていた。

### 【学習指導要領の改訂】

1989年3月10日文部省は新しい学習指導要領を告示した。改訂版は、中学校で1993年度から完全実施、高等学校は1994年度から学年進行で実施される。

### 【新学習指導要領・特別活動の改善の要点】

#### ①中学 クラブ活動の改善

実施の形態や方法は学校の実態に応じて弾力的に実施できるようにする。その際、部活動への参加をもってクラブ活動の履修に替えることができるようにする。

#### ②高等学校 クラブ活動の改善

実施の形態や方法は学校の実態に応じて弾力的に実施できるようにする。その際、部活動への参加をもってクラブ活動の履修に替えることができるようにする。

\* 1989年度より愛知県立旭丘高校へ転勤

新指導要領の内容は中学、高校同じである。しかし、愛知県下のクラブ活動・部活動の実状、そして中学、高校両方のクラブ活動・部活動を指導した経験、生徒の発達段階の3つからすれば新指導要領のもたらすものは中学と高校では画然とした相違がでることが予想される。実状、経験は以下述べることになるが、発達段階については、中学1年生は小学6年生と同じ、高校3年生は大学1年生と同年齢であることを指摘するだけで十分であろう。

クラブ活動・部活動については、本校のような中高一貫の学校では中1・中2、中3・高1、高2・高3の三分区分、そうでない学校は1年・2年と3年の2区分をし、目標と方法を年齢とともに変化させる方が効果的と思われる。

### 【現行指導要領・通達】

・特別活動のうち、クラブ活動、学級会活動については年間35週以上にわたって授業を行なうように計画すること、… (1977年改訂前)

・……クラブ活動については、毎週実施できるように配慮する… (改訂後) 文部省初等中等教育局編集 「教務関係執務ハンドブック」1583ページ

### 【本稿の主題】

クラブ活動について、第一に弾力的に実施する際の形態や方法について実践的な提案をすること、第二に部活動への参加をクラブ活動の履修に替えることの長所短所について考えること、この二つを本稿の主題とする。

## 【本校の実践の特色】(改革前)

- 〈部活動〉 ①生徒会を中心とした生徒の自治活動  
(←管理主義)  
②全員選手  
(←少数精鋭主義)  
③自由な部の設立, 入退部, 出欠  
(←根性主義)  
④友人的先輩後輩関係  
(←封建的上下関係)

### 〈必修クラブ〉

- ①現行教育課程の完全実施  
②多彩なクラブ成立  
③教師による設立と学校側の生徒配分

### 〈金とヒト〉

人間の社会で、何か良い成果をあげようとするれば潤沢な資金、優秀な人材は欠かせない。国立大学附属学校では、PTA、後援会の会費、エリート化した生徒がこれにあたる。しかし本校では、20年間、PTA、後援会費を値上げせず、完全抽選入試で、大衆的な学力レベルの生徒を集めている。

## 【部・クラブ活動の沿革】

- ~1972年度 全員部活入部制  
1973年度 必修クラブ導入 部活入部は希望者制  
1988年度 部・クラブ一本化

## 【討論】

1981年度 必修クラブ意識調査

- ①クラブ活動はしていて楽しいですか。
- |       | 教師  | 生徒  |
|-------|-----|-----|
| 楽しい   | 19% | 31% |
| 普通    | 75% | 48% |
| 楽しくない | 6%  | 20% |
- ②どんな気持ちで取り組んでいますか。
- |                   | 教師  | 生徒  |
|-------------------|-----|-----|
| 意義あるものとして         | 25% | 20% |
| 特にこれといって気持ちはない。   | 44% | 48% |
| めんどろに思うこともある。息抜き。 | 31% | 32% |
- ③クラブと部は切り離されていますが、
- |           | 教師  | 生徒  |
|-----------|-----|-----|
| 現行のままでよい。 | 44% | 91% |
| 一体化するとよい。 | 50% | 9%  |
| その他       | 6%  | 0%  |

1985年2月25日 研究会議

『部活動に真剣に取り組むためにクラブは部と合流して一本化を』

『今のクラブは生徒のメンバーが定着せず、週一時間しかないことから成り立ちにくい。部活動は生徒と常につきあうべきだが、委員会、会議でそれが出来ない。きまった時間(クラブ)に生徒も教師も部活動に専念したい。』

『現在のクラブは生徒の掌握が難しい。』

『クラブの部屋にほかの生徒が入ってきたり、廊下をぶらぶらしている者があり、ルーズなクラブもあるのだと思う。』

1985年5月13日 部活顧問会議

『グラウンドは中高・野球, 中高・サッカーで狭いぐらい。』

『現在の部の数は多すぎる。高1男子在籍65名, そのうち70%が運動系を希望するとして45名。バレー6名, 野球9名, サッカー11名, テニス6名, 卓球5名, 柔道5名, 弓道3名(以上合計45名)他に水泳部があります。』

## 【問題点】

- 〈部活動〉 ①活動計画たたず, 練習内容への合意不成立, お遊び化  
②一勝もできず卒業  
③乱立で人数そろわず, 気軽に欠席  
練習内容の希薄化  
④厳しい訓練の不在

### 〈必修クラブ〉

- ①週一時間, 6学年雑居集団で技能の向上は望めない  
②問題行動の多い生徒の集まりやすいクラブの運営困難化  
③教師の趣味と生徒の要求のすれちがい

### 〈状況の変化〉

完全抽選の長期実施により, 生徒集団の性格は質的に急変していった。従来の部活・クラブ活動の長所(左記, 本校の実践の特色)よりも, むしろ短所(上記, 問題点)が強く意識される状況が出現してきた。

部活動に属している生徒の集団的非行, 規律を欠く運営, 活動自体の停滞。生徒会の自治活動の重要な部門とはいえ座視するに忍びない非教育的時間空間がひろがりつつあった。

クラブ活動についても, 次ページのようなクラブを開講していたが, 生徒の興味は別の所にある。

必修クラブについての考察

クラブの種類 1973年～1989年

ク	ラ	ブ	名	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	
1	バ	ド	ミ	ン	ト	ン	球													◎	◎
2	卓					球															
3	ソ	フ	ト	ボ	ー	ル															
4	バ	レ	ー	ボ	ー	ル															
5	バ	ス	ケ	ッ	ト	球															
6	水					泳															
7	ハ	ン	ド	ボ	ー	ル															
8	サ	ッ		カ	ー	道															
9	弓					術															
10	中	国		武	体	操															
11	女	子				ス															
12	ダ		ン			ス															
13	テ		ニ			ス															
14	マ	ラ		ソ		ン															
15	万	ラ	ン	ニ	ン	グ															
16	野					歩															
17						球															
18	演					劇															
19	園					芸															
20	奉	仕	作	業	美	化															
21	レ	ク	リ	エ	ー	シ															
22	ク	ラ	シ	ッ	ク	ギ															
23	ブ	ラ	ス	バ	ン	ド															
24	リ	コ	ー		ダ	ー															
25	尺					八															
26	オ	ー	デ	イ	ア	ズ															
27	モ	ダ	ン	ジ	ャ	バ															
28	ク	ロ	ス	オ	ー	バ															
29	ク	ラ	シ	ッ	ク	音															
30	フ	ォ	ー	シ	ク	ソ															
31	ロ				ア	ン															
32	中	国		語	入	門															
33	E			S		S															
34	英					詩															
35	英			会		話															
36	英	語	ヒ	ア	リ	ン															
37	英			グ	セ	ミ															
38	手					語															
39	英		文		読	書															
40	英		文	学	講	読															
41	こ	と	ば	あ	そ	び															
42	漢					字															
43	古					典															
44	古		文		漢	文															
45	中	世	文	学	・	平	安	文	学	・	源	氏									
46	文					芸															
47	読					書															
48	読	書		感	想	文															
49	表					現															
50	P			E		N															
51	童					話															
52	マ	ン		ガ	研	究															
53	映					画															
54	映	像			研	究															
55	写					真															

ク	ラ	ブ	名	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
56	仏	像	研			○	○	○	○	○	○	○	○							
57	美		術																◎	◎
58	デ	ッ	サ													○				
59	ス	ケ	ッ						○											
60	水		石							○										
61	茶		道	○	○	○	○													
62	陶		芸	○	○	○														
63	七		宝				○													
64	工		焼								○	○	○	○						
65	模	型	工											○						
66	模	型	飛	○	○												○	○		
67	折		紙									○								
68	切		居										○	○						
69	紙		芝		○					○	○	○								
70	ガ	ラ	ス								○									
71	技		細				○													
72	家		庭	○							○									
73	ハ	ン	ド									○								
74	手	芸	あ			○										○	○	○	○	
75	応		急																	
76	へ		ル																	
77	旅	行	プ	○																
78	机	上	旅										○	○	○					
79	自	己	発																	
80	囲	碁	将		○	○	○	○	○	○	○								○	
81	百	人	一		○															○
82	文	化	研								○									
83	世	界	文									○	○	○	○	○	○	○	○	
84	ア	ジ	ア											○	○	○				
85	統	計	地											○						
86	統		計																	
87	地	図	地										○							
88	地	域	地																	
89	現	代	史	○	○	○														○
90	平	和	探																	
91	社	会	問							○	○	○								
92	公	害	問	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
93	時	事	問		○				○											
94	学	校	研																	
95	郷	土	研									○								○
96	古		代						○											
97	古		代									○								
98	科		学	○	○	○	○	○	○											
99	楢	円	コ																	
100	食	品	問																	
101	C	O	S																	
102	化	学	生																	
103	デ	ジ	タ										○	○						
104	コ	ン	ピ	○	○				○											
105	マ	チ	ユ																	
106	ア	マ	チ																	
107	タ		ユ									○								
108	数	学	パ			○														
109	数	理	・																	
			数											○	○			○		○

◎ は部、サークルの必修クラブ時間内実施を示している。

改革前 1987年度

【部活動】

	名 称	登録人数	活動人数	付添い顧問
1	中 学 野 球	25	14	0
2	高 校 野 球	14		
3	柔 道	19	3	1
4	水 泳	12	0	0
5	ハ ン ド ボ ー ル	14	8	1
6	中学バレーボール	21	0	0
7	高校女子バレーボール	15	0	0
8	高校男子バレーボール	14	0	0
9	中学バドミントン	24	7	0
10	高校バドミントン	17		
11	中学バスケットボール	12	0	0
12	高校バスケットボール	18		
13	中学女子テニス	20	15	1
14	中高男子テニス	40		
15	高校女子テニス	15		
16	中 学 卓 球	10	0	0
17	高 校 卓 球	15	0	0
18	中 学 サ ッ カ ー	19	11	0
19	高 校 サ ッ カ ー	16		
	合 計	340	58	3

◎活動人数、付添い顧問数は、1988年2月2日(火)調べ

2月は、新中1のうけいれ準備、中3の進路指導、新高1入試準備、高3の卒業など、小規模校である本校では教師の多忙な時期である。

部活動は授業後に活動。希望者参加。生徒会則中に部則があり、成立条件、活動日等を決め、生徒会の担当者が振興につとめていた。しかし、改革前夜の1988年2月には左表の如く、グラウンド、体育館とも人影まばらであった。

特に人数の少ない日の調査ではない。同月6日(土)の活動人数は野球7、柔道5、ハンド11、バレー7、バド16、バスケット7、テニス27、サッカー2、計82名、付添い教師合計3名

【サークル】

授業後に活動。希望者参加。

1. 化学
2. 美術
3. 写真
4. 弓道

【クラブ】

中学、高校合同で週一時間。全員必修。

1. バスケットボール
2. ソフトボール
3. マラソン
4. 軟式テニス
5. バドミントン
6. 卓球
7. 女子体操
8. 水泳
9. サッカー
10. 弓道
11. 統計
12. 民族文化研究
13. 表現
14. E. S. S.
15. クラシック音楽鑑賞
16. 平和研究
17. クラシックギター
18. 数学
19. 模型工作
20. ハンドボール
21. 古典研究
22. レース編み
23. デッサン
24. 百人一首
25. COSMOS鑑賞
26. 英語ヒアリングセミナー
27. 学校史
28. 童話
29. 漢字

改革後 1988年度

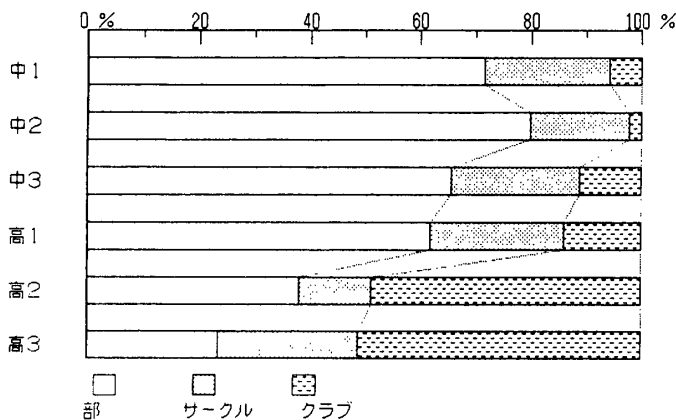
【部活動】

	名 称	登録人数	活動人数	付添い顧問
1	ハンドボール	48	31	2
2	中学野球	26	25	1
3	テニス	92	39	1
4	バドミントン	46	14	2
5	女子バスケットボール	22	13	0
6	弓道	37	15	0
7	美術	17	6	1
	合 計	288	143	7

◎1989年1月31日(火)調べ

【部・サークル・クラブへの生徒の選択】

学年別登録人数構成 1989年度



1989年5月現在、登録人数は 部 53%  
 サークル 21%  
 クラブ 26%

部、クラブ、サークルを一本化した場合、生徒は、学年はじめに、体育系の部活動を選ぶ。中高一貫の本校では中学でその傾向が顕著である。4月5月はグラウンド、体育館は生徒であふれる。登録人数に近い数での活動がおこなわれる。運営を生徒にまかせていた1987年度には一年を通し2月まで活動する生徒は17%。必修クラブの時間に毎週部活を強制した1988年度は2月に49.7%が平日活動していた。

- ・部活動…週3回以上活動、生徒が設立
- ・サークル活動…週2回以上、
- ・クラブ…週1回、必修クラブの時間のみ活動、教師が開設。

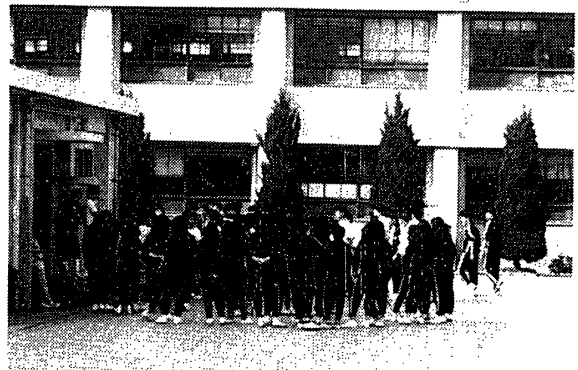
本校では木曜6限に必修クラブの時間を設定している。中高合同。生徒は部、クラブ、サークルの3つのうち1つを選択し、所属する。必修クラブの時間に部、クラブ、サークルを同時展開するため、活動場所が重複しないよう運動系の部、クラブ、サークルの総数が限定される。

【サークル】

1. 演劇
2. 映像研究
3. アマチュア無線
4. 水泳

【クラブ】

1. ロシア語
2. 現代文研究
3. 古典研究
4. 郷土史
5. 郷土研究
6. 映画研究
7. 楕円コンパスを作る
8. フォークソング
9. 平和探究
10. 英文学講読
11. 英語



テニス部、必修クラブの時間終了時ミーティング  
 1989年5月撮影

【必修部活】

今年、1989年、毎週クラブの時間には全校生徒の53%334名が部活動に参加している。改革前の部活動参加生徒数は50名前後。上のテニス部の写真に写っているだけでも50名は越えている。量的には活動水準の底上げに成功したと言えようか。量の増加が質の向上につながる部が多いと信じたいが、集団競技、個人競技のちがいで効果は一様でない。

中高一貫の本校では部、クラブの一本化が部活必修への動きとなっている。

## 【クラブ活動の自分史】

《サッカー・クラブ》 ——運動系の一例——

スポーツ系のクラブの人気は高い。そして、人数も過剰となる。中1から高3まで、40人以上の生徒が、週一回、50分間、サッカーをやる。烏合の衆が体操服に着がえて集まり、点呼、チーム分け、組みあわせを決めると、すでに15分すぎている。40人を4チームとし、2試合。一試合は15分となる。ボールにさわっているのは数名のサッカー部員のみ、あとの生徒はボールを眺めて走っているだけ。体格、体力の差もあり、中1、中2はやることがない。雨の日には、さらに指導はむつかしくなる。試合に出るのが15分となると見学の時間に逃走する生徒の心配も出てくる。

《園芸クラブ》 ——作業系の一例——

都市の学校では、十分な仕事量を確保するのはむつかしい。20人ほどの中学高校生が50分間作業すると、どれくらいの面積の種まきができるだろうか。サッカーはボール一つで、20余人が汗をかいて走りまわられる。しかし、園芸は一人一人に材料と場所が必要。男女差、年齢差に対応するのも大変だった。屈強の高2男子20人が集まり、土木作業用スコップ人数分、レンガ数百箇を注文。物が到着したころには後期となり、生徒はいれかわり、中2女子ばかり。テレビの園芸講座と同じことをするには金がかかりすぎる。時期も園芸にとっては大事だが、春休み、夏休みと重なって大切な時期は顧問の仕事となる。週一回の活動では水をやらず、枯らしてしまった生徒は、その後やる事にこまる。

《手話クラブ》 ——語学系の一例——

このクラブは多数の生徒が集まり、熱意も十分、好調なすべり出しと思われた。ところが三週目ぐらいから実施が困難になってしまった。週一回で、大多数は前回の内容を忘れてしまうので、先に進めなくなる。上達した少数にあわせるのか、入門部分をくりかえすのか……。中1から高3までの40人余の生徒の、週一回の語学の授業というのは成りたつのだろうか。

しかし、クラブを納得すべき水準で実施するとすれば、年齢別にした語学系、生徒が熱意を持つ福祉関係は有望な分野であろう。

《社会問題研究クラブ》 ——教科の周辺——

社会科の教師としては、準備がいない楽なクラブだった。岩波新書の「昭和史」をテキストに、あれこれ話し合いながら現代史を考える。週一回ぐらいがちょうど良い。

問題は、希望する生徒が少なく、少人数クラブとなることである。少人数は望ましいのだが、他の教師が炎天下、多数を相手に、苦勞している時に、数人と樂をするのは、申しわけないことである。

## 【改革案1】集中実施

毎週実施ではなく、クラブ活動の日を設定する。年35時間は確保し、前期2日、後期2日集中講座をやる。野外への展開、一泊旅行、遠征も可能になる。連続した時間が確保され、ゲーム等、心ゆくまでやれることになろう。乏しい資金だから、4日分の準備の方が週一回一年間より、やりくりが楽になる。教科の授業時間がふえ、規律を欠く時間帯が日常の時間割から消えるという利点もある。

## 【改革案2】さみだれ実施

クラブの特性によって時期を選択する。指導教諭の専念しやすい時期の月・水・金の授業後、あるいは夏休み中の水泳の集中実施、冬のスキー合宿など、種目の実施にタイムリーな時期を選んで、年35時間は実施する。クラブは授業時間には入れない。生徒は何か一つ、部またはクラブを年35時間履習する。

## 【改革案3】部・クラブ一本化

本稿で報告したような形。中学1年生から高校1年までは必修部活、高2高3は週一回の必修クラブが中心になっている。部活の人員が過剰となり運営しにくい、部活動を生徒会から取りあげるような傾向を持つといった欠点がある。本校の場合、改革案1も2も、部・クラブ一本化を前提として討論している。

## 【おわりに】

仕事は、無心にうちこんでいけば完成してゆくということであってほしい。

ところが、部活動、クラブ活動は、十年以上やっても教育活動として成就する可能性が見えてこない。

その原因を教育条件の整備に求め、部・クラブの一本化の名の下に、部・クラブ数の半減をはかりました。

内容がよくなったかどうか、読者の顧問諸氏はチームをつれて我校のグラウンドを訪ねて下さい。